

## 1 研究主題

# 主体的・対話的な学びに向かう子の育成

～学びの土台づくりを大切にした国語科の授業を通して～

教科：国語科

## 2 主題設定の理由

### (1) 学校目標から

本校は「今日も来てよかった、明日も来たいと思える学校」を学校教育目標に掲げ、教職員全体で教育活動に取り組んでいる。それに伴い、研修部では、自ら課題解決に向けて探求し、わかる喜び・学ぶ喜びが実感でき、一人ひとりが大切にされる授業づくりをめざしていくために、「主体的・対話的な学びに向かう子の育成」を研修主題に掲げ、全職員で研修に取り組んでいく。

### (2) 昨年度の研究から

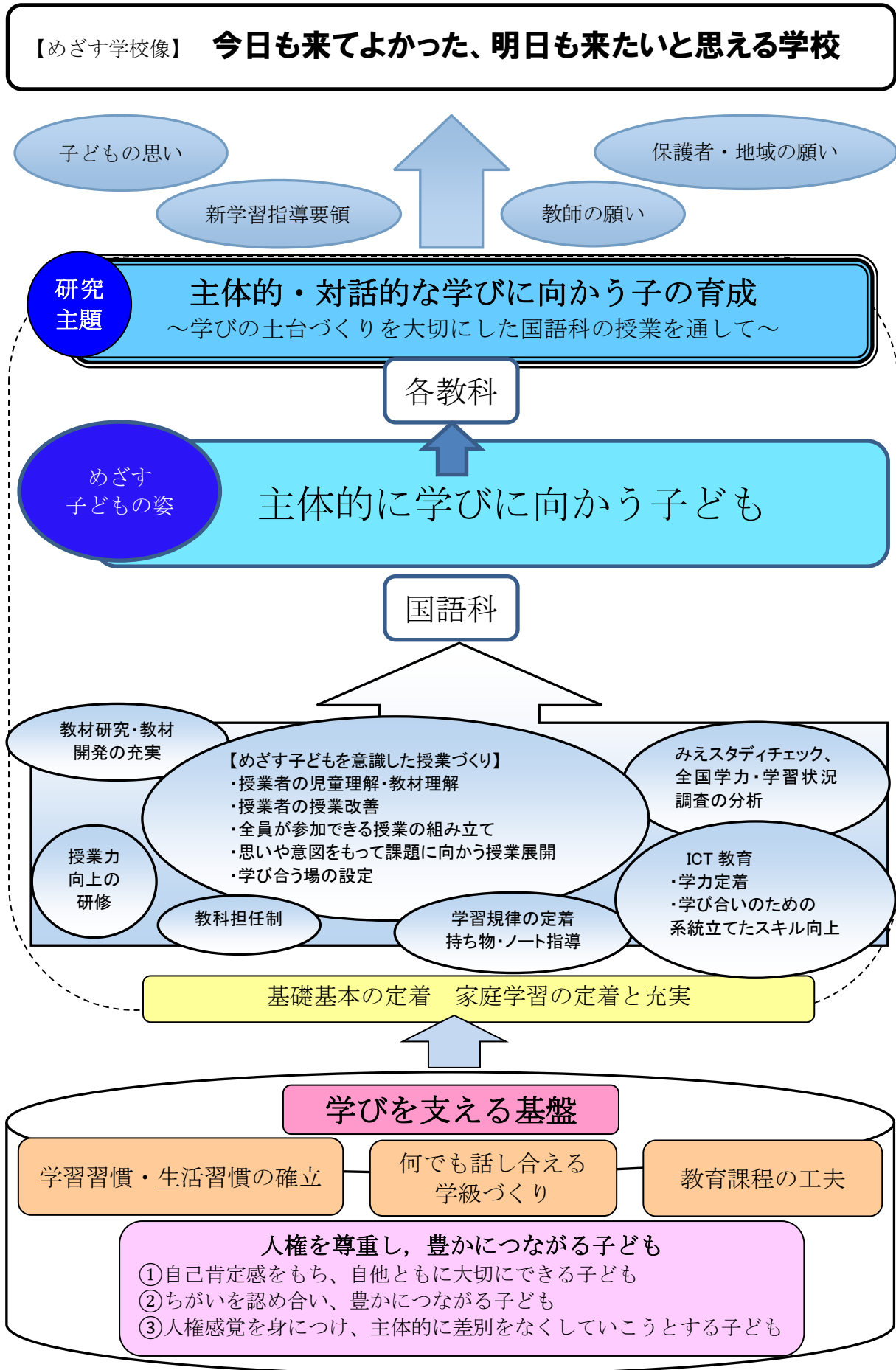
昨年度は、主体的に学びに向かう子の育成に向け、単元や1時間の見通しをもって、課題やめあてを作成することに取り組み、「何を学ぶか」が子どもに分かりやすくなったことで、授業中に自分から進んで課題に取り組む児童が増えた。また、自分の考えをもち友だちと考えを交流する場を工夫する機会を積極的に取り入れたことで、友だちとの交流に前向きな児童の姿も増えてきた。

一方で、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果分析から、考えを「筋道を立てて」「自分の言葉で」「順序良く」表現することを苦手とする子はまだまだ多い。また、「友だちの考えと自分の考えを比較しながら聴くことができない」という弱みも見られる。そのことは、要点をつかんだり、要旨をまとめたりする力をもっとつける必要があるという課題にも通じている。また、授業者の改善点として、教科特有の課題提示の工夫や、授業展開における子どもたちへの問い返しなど、教師のアプローチの仕方について深めることができていないことから、授業者一人ひとりの授業力を高める必要があるという課題も明らかになった。

全ての子どもにとって主体的に取り組むことのできる課題や発問や日々の言葉がけをするためには、的確な教材理解に基づき育てたい資質能力を見据えることと、一人ひとりの子どもの学びの状況を把握することが不可欠である。そうすることで、子どもたち全員の理解する力を育て、友だちと対話することで一人ひとりの学びを深める学び合いが期待できる。

これらのことから、本年度は、研究主題を「主体的・対話的な学びに向かう子の育成」とし、それに向けた学びの土台づくりを考えていく。そのために、まず授業者一人ひとりが自らの授業に課題意識をもち、課題解決のための方法を模索することから始める。また、教材理解と児童理解に努め、子どもたちが言葉を大切にし、どの子も考えを表現したり受け止めたりできるようになることをめざして、国語科を中心に研修を進めていく。

ともに学び合うなかで「できるようになった」「一緒に解決できた」「聞いてもらえた」「自分にはない考えを知れた」という、学ぶ楽しさや達成感を味わえる授業づくりを全職員で行っていく。



### 3 研究主題・副題のとらえ方

#### (1) 研修主題「主体的・対話的な学びに向かう子の育成」について

「主体的な学び」とは、児童が学習の意味や目的を理解し、自ら学びに向かおうとする姿勢をもって取り組むこと。

「対話的な学び」とは、児童が他者との関わりを通して、自分の考えを広げたり深めたりしていくこと。

#### (2) 研究副題「学びの土台づくりを大切にした国語科の授業を通して」について

##### ① 「学びの土台づくり」とは

「主体的・対話的な学び」を実現させるためには、授業者の的確な教材理解・児童理解に基づいた授業づくりや介入の仕方を研修し実践する授業改善が必要であり、これを「学びの土台づくり」とする。

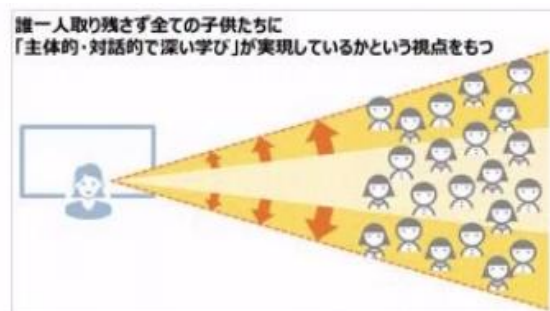
授業者は、子どもが知識・技能を得るだけでなく、知識・技能を活用して課題に向き合う力をつけるために「何を学ぶか（学習内容）」に加えて、「どのように学ぶか（学びの過程）」に注目することが必要とされている。

そのために欠かせないことは、授業者の教材研究による教材理解である。その上で、どの考えを取りあげて子ども同士の考えをつなぎ、どのように授業のねらいを達成させていくかという授業構想を描くことで、実際の授業において子どもたちの思考や発言に的確に対応し、学びを実感できる授業にすることができると考える。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善とは、特定の指導方法の「型」つまり、「グループワークを入れればよい」「ICTを使えばよい」といった形式的な対応を指すのではなく、以下のような視点を手掛かりにしながら、子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な授業の工夫・改善を重ねていくことが必然となる。

教師が教える授業	→	学習者が問いをもって考える授業
正解を覚える学習	→	学習者が根拠をもとに考え、説明する学習
個人完結の学び	→	自分と他者との対話・協働を通じた学び

また、以上のことに加えて、「個別最適な学び」の視点をもった授業改善も重要だと考える。1つの学級でも子どもたちの学びに関わる認知の特性は様々で、子どもによって話すこと・聞くこと・書くこと・読むことに得意・不得意があることは言うまでもない。また、日本語を家であまり話さない子ども、発達の特性が見られる子ども、不登校や不登校傾向のある子ども、学力の低い傾向が見られる子どもなど、背景も様々である。これらの子どもたちがともに学習する時、これまでの画一的な「特定の子ども像」のみを想定して授業を行っても、全ての子どもの学びを「主体的・対話的な学び」にすることは難しい。子ども一人ひとりの多様性を踏まえながら、それぞれに最適な学びを目指していくことが重要であり、これは、令和答申においても「個別最適な学び」が必要であるとして提唱されている。



全ての子どもに「主体的・対話的な学び」を通じた資質・能力の育成を実現するために、「個別最適な学び」の視点を持ち、児童理解を大切にした授業改善「学びの土台づくり」を進めていく。さらにこの土台を積み重ねることで、「主体的・対話的で深い学び」につながっていくことも視野に入れている。

## ② 「国語科の授業を通して」とは

昨年度の授業者の課題である、授業者一人ひとりの授業改善においては、まず自らの授業を振り返り、主体的・対話的な子どもの姿につながる授業の改善点を明確化し、その中から自分の課題に適した改善方法を選択して研修を進めていく。その時に、実践を検証するためには共通の視点をもつ教員同士での研修がより具体的に考察できると考え、教科は国語科に絞ることとする。子どもたちの中にも「筋道を立てて」「自分の言葉で」「順序良く」表現することを苦手とする子がまだまだ多い。また、「友だちの考えと自分の考えを比較しながら聴くことができない」という弱みも見られる。

これらのことから、他教科とも共通する授業改善に加えて、言葉による見方・考え方を働かせた国語科の授業改善がまずは必要である。国語科を切り口に研修を進めることで、本校の子どもたちに国語科の知識・技能が身につくことに加え、言葉を大切にして思いを言語化する意識が根付き、他教科においても、主体的・対話的な学びに波及していくことを目指していく。

## 4 めざす子ども像

めざす子ども像によって、具体的な手立てが異なるため、「個別最適」「主体的な学び」「対話的な学び」の3つの視点から、めざす子ども像を想定する。

「個別最適」の視点からの、めざす子ども像

○全員が、自分のゴールや課題に見通しをもって参加する

「主体的な学び」の視点からの、めざす子ども像

- 学習の目標や内容を理解し、思いや意図をもって取り組もうとしている
- 子どもが「知りたい」と思う「問い」をもって取り組もうとしている。
- 学習過程を振り返り、次の学びに生かそうとしている
- 困難や失敗があっても、学習を調整しながら取り組もうとしている。

「対話的な学び」の視点からの、めざす子ども像

- 考えを言語化・可視化することで理解を深める。
- 他者の考えや異なる視点に触れ、自分の考えを見直したり新たな気づきを得たりする。

## 5 研究内容

研究主題である「主体的・対話的な学びに向かう子の育成」のためには、様々な活動の先にある「めざす姿」を思い描きながら方向性がぶれることなく、活動が行われていく必要がある。そのため、研究内容は、まず単元を見通した教材理解をもとに単元計画を立て、次に具体的な活動内容を考えていくこととする。

### ① 身につけたい資質・能力をゴールとする単元計画の作成

授業者と学習者が、ともに活動に対する思いや意図をもって取り組むために、授業者が単元を見通した教材理解をし、1時間ごとの、「めあて」と「活動内容」を明確にする。また、それらを子どもにもわかりやすい形で共有し、子どもたちも見通しをもった学習活動ができるようにする。授業者だけが見通しをもち、子どもは活動をするだけで気づいたら成果物ができたり活動が終了したりするという、受動的な活動にならないように授業を改善する意識をもつ。またこれは、国語科特有の言葉による見方・考え方を働かせた活動になるように計画することも重要である。

#### (単元計画の例①)

教科書の指導書に載っている単元計画 (第1時から第8時)

おもいうかべながら よもう							
くじらくも 8時間(知・技①、読⑦) ◎かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)ウ) ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 (知・技(1)ク) ■読んで想像したことを伝え合う。	<table border="1"> <tr> <td>1~2</td> <td>1 扉の詩を声に出して読み、目次を見て下巻の見通しをもつ。 2 学習の見通しをもつ。 ・題名から「くじらくも」を想像することで、物語の様子を「おもいうかべながらよもう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</td> </tr> <tr> <td>3~6</td> <td>3 教材文を読み、内容の大体を捉えて、様子を思い浮かべる。 ・挿絵を手がかりに想像を広げながら、教師の範読を聞き初発の感想を交流する。 ・様子を想像して、かぎ(「」)のところをどのように音読するか考える。</td> </tr> <tr> <td>7~8</td> <td>4 読んで想像したことを伝え合って共有する。 ・友達が想像したことを聞いて、思ったことを発表する。 5 話した言葉を、かぎ(「」)を使って書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</td> </tr> </table>	1~2	1 扉の詩を声に出して読み、目次を見て下巻の見通しをもつ。 2 学習の見通しをもつ。 ・題名から「くじらくも」を想像することで、物語の様子を「おもいうかべながらよもう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。	3~6	3 教材文を読み、内容の大体を捉えて、様子を思い浮かべる。 ・挿絵を手がかりに想像を広げながら、教師の範読を聞き初発の感想を交流する。 ・様子を想像して、かぎ(「」)のところをどのように音読するか考える。	7~8	4 読んで想像したことを伝え合って共有する。 ・友達が想像したことを聞いて、思ったことを発表する。 5 話した言葉を、かぎ(「」)を使って書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
1~2	1 扉の詩を声に出して読み、目次を見て下巻の見通しをもつ。 2 学習の見通しをもつ。 ・題名から「くじらくも」を想像することで、物語の様子を「おもいうかべながらよもう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。						
3~6	3 教材文を読み、内容の大体を捉えて、様子を思い浮かべる。 ・挿絵を手がかりに想像を広げながら、教師の範読を聞き初発の感想を交流する。 ・様子を想像して、かぎ(「」)のところをどのように音読するか考える。						
7~8	4 読んで想像したことを伝え合って共有する。 ・友達が想像したことを聞いて、思ったことを発表する。 5 話した言葉を、かぎ(「」)を使って書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。						

単元を通して身につけさせたい力

学習内容  
その時間に身につけさせたい力

#### (単元計画の例②)

上記をもとに、めあて・内容・留意点を具体化した単元計画(第2時までを抜粋)

国語科	単元「くじらくも」
単元のめあて(ゴール像) ◎かぎ「」の使い方を理解して、文や文章の中で使えるようにする。(知・技) ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技) ○想像力を広げて物語を読み、想像したことを友だちに伝える。(主体)	
授業計画	子どもに提示する本時のめあて 学習内容・身につけたいこと 留意点 (主体的・対話的な学び)
①	「ともだち」をよんで「ヤッホー」のよみかたをかんがえよう 「くじらくも」は、どんなおはなしだとおもったかかこう Bどんなおはなしだったかか Aはそれにくわえて、じぶんのおもったことをか Sおもったことによりゆうをつけてか ・「ともだち」を読み、「ヤッホー」を一人や複数、大きさを変えたりして読むときの気持ちや読み方を考える。(思) ・「くじらくも」がどんな話なのかを想像し、範読を聞く。(思)
②	はなしていることばにきをつけてよもう Bだれのことばかかんがえて、せんをひく やくわりをきめてよむ Aおはなしのないようにあわせてよみかたをくふうする。 ・役割を決めて読み、音読の仕方工夫できることがあることを確認し、単元のめあて「おもいうかべながらよもう」をおさえる。(知)

「主体的・対話的な学び」  
になるための意図と留意点

「指導の個別化」を目的とした  
本時のめあてとゴール

(子どもたちに提示する単元計画の例)

ラーニング・マウンテン  
—学びの山を登って頂きましょう—

単元名 { } 全 { } 時間 教育出版

みんなで解決したい問い

5下のめづりを調べて発表しよう

わかること・できること

考えること・書くこと

くらべて学び合うこと

【第3ステージ ( ) 時間】  
(こんな学習をしてこんな力を！)

【この単元を通してふり返り】

【第2ステージ ( ) 時間】  
(こんな学習をしてこんな力を！)

【第1ステージ ( ) 時間】  
(こんな学習をしてこんな力を！)

スタート

【この単元に関わって知っていること・できること】

「くじらぐも」がくしゅうのながれ  
めあて ようすを おもいうかべながら よもう。

① どうしようじんぶつと ばめんのようすを よみとろう。  
おんどくを くふうしよう。

・1のばめん  
・2のばめん  
・3のばめん

③ どんなおはなしを していたか そうぞうしよう。  
4のばめん

・4のばめん  
・5のばめん

④ すきなばめんを つたえよう。

わたしは ばめんが  
すきです。  
なぜかというど、  
だからです。

② 「めざす姿」を実現するための「学びの土台づくり」となる手立て

授業者自らの課題や学年の子どもたちの実態をとらえ、授業者の課題解決・子どもの学びの土台づくりに向けて、「個別最適な学び」「主体的な学び」「対話的な学び」の3つの視点から手立てを選択し、実践していく。

「個別最適な学び」に向かうために

○全員が、自分のゴールや課題に見通しをもって参加するための手立て

- ・安心できる学習環境をつくるために、学習規律、学習環境を整える。
- ・「分からない」「間違い」が学びになる展開を工夫する。
- ・1時間の見通しがもてるワークシートの工夫。 ・他者参照できる環境づくり
- ・「指導の個別化」の視点で、めあてとゴールを設定する。

「主体的な学び」に向かうために

○学習の目標や内容を理解し、思いや意図をもって取り組もうとするための手立て

- ・単元計画をもとに、「何を学ぶか」「どう学ぶか」を明確にし、子どもが理解し見通しをもっているか実態を把握しながら進める。
- ・導入の工夫や疑似体験や役割演技で課題を自分事と捉えて思いや意図をもたせる。

○子どもが「知りたい」と思う「問い」をもって取り組むための手立て

- ・子どもの「分からない」と思うことを授業者が整理して「問い」を導き出す。
- ・子どもによって異なる「考え」が生まれ、「解決したい」「話し合う必要がある」と思えるような「課題」を授業者が設定することで、「問い」を導き出す。

○学習過程を振り返り、次の学びに生かそうとするための手立て

- ・振り返りの視点を事前にもたせたり、書き方の例を提示したりする。
- ・掲示物や ICT など学級全体で可視化できる工夫をして、友だちの考えや、その時間の前後の関係をとらえて、本時の自分の学習に生かせるようにする。

○困難や失敗があっても、学習を調整しながら取り組もうとするための手立て

- ・振り返りなど、個人の考えや学習の過程を授業者が把握した上で、めざすゴールを見据えて介入する。(授業者の教材理解と出場の工夫)
- ・友だちの考えに気づかせて自分の考えに生かせるように子ども同士をつなぐ。

「対話的な学び」に向かうために

○考えを言語化・可視化することで理解を深めるための手立て





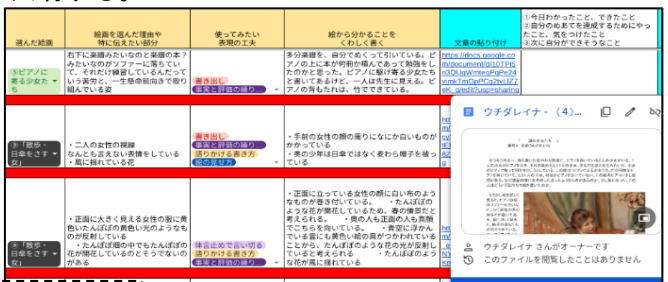
- ・個々の考えや立場、進捗状況を可視化することで、「同じ考えの友だち」「違う考えの友だち」「先生」「資料」など、学びたい相手を選択したり、自分の考えに生かしたりできるようにする。
- ・自分の考えを相手にわかるように話す場面を設定することで、他者意識をもって理解したことを整理し、具体化した言葉に直して話せるようにする。

○他者の考えや異なる視点に触れ、自分の考えを見直したり、新たな気づきを得たりするための手立て

- ・「教え合い」→「学び合い」の意識で取り組む
- ・的確な問い返しの視点を持ち、授業者や友だちから問い返しをすることで、思いや考えを言語化させる自覚的な学びにつなげる。(メタ認知)
- ・授業者が、個々の振り返りに対してコメントの中で価値づけをし、関連する考えをもった児童とつなげる役割をする。

また、対話的な学びの過程では、効果的な考えの提示・「だれと学ぶか」を選択するための考え方・ICTの活用などが必要となる。これらについてスキルや経験を積めるよう、研修内容①②と並行して、以下の表にかかれた内容を参考にし、学年に応じた系統性をもって取り組めるようにしていく。高学年までに対話的な学びにつながるスキルを身につけておくことで、より活動が活発になることをめざしていく。

〈対話的な学びにつながる活動〉

低学年	中学年	高学年
友だちに考えを聞いてもらう嬉しさや、友だちの考えを知るおもしろさを味わう。		
考えが同じ友だちとの交流、違う友だちとの交流のそれぞれの考えの違いを経験し価値づけ、「だれと学ぶか」を決めるときの手立てとする。		
 <p>各自の考えや立場が分かるよう、名前マグネットが貼ってある。</p>		
<p>黒板や掲示物で考えを可視化・共有する。</p> 	<p>オクリンクやスプレッドシートなど ICT で考えを可視化・共有する。</p> 	
<p>(ICT で身につけさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オクリンクで写真を送る。</li> <li>・Google フォームでアンケートに答える。</li> <li>・手書き入力ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オクリンクで考えを共有する。</li> <li>・ローマ字入力ができる。</li> <li>・複数人でスプレッドシートに入力し、共有できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級で1枚のスプレッドシートに入力したり、資料を添付したりして共有できる。</li> <li>・Google でアンケートを作成できる。</li> </ul>

## 6 研究方法

### (1) 授業研究

#### 【1学期】

- ・個人・学年研究を行う
  - I 学年で国語科の重点単元を決め、研修内容①の単元のめあて（ゴール像）を明確にした単元計画（単元計画の例①）を作成する。
  - II 単元計画をもとに授業を進める中で、研修内容②の学びの土台となる手立てを自分で選択し、実践する。まず1学期は、「個別最適な学び」「主体的な学び」に向かうための手立ての中から選択することとする。  
実践したい内容はスプレッドシートに入力し、実践は記録しておく。  
これを夏の全体研修会の時に共有し、検証するための資料とする。
  - III 「対話的な学びにつながる活動」を取り入れて、計画的に子どもたちに経験やスキルを身につけさせる。
- ・国語科の全体研究授業を行う（5年生）
  - I 事前検討会は、学年部を中心に行う。
  - II 全体に向けた事前説明会を行い、手立てや事後検討会の討議の柱について共有する。
  - III 公開研究授業は、自習及び支援体制を整え、基本的に全職員が参観する。
  - IV 授業公開後、事後検討会を行う。
- ・その他の研修
  - ・自主授業公開を行い、授業を見合う。
  - ・自主授業公開後、ミニ事後検討を行う。
  - ・各学期2回以上のミニ研修会を行う。基本は全員参加とする。

#### 【夏季休業中】

- I 全体研修会で他教科での学びの土台づくりの共有。各個人の実践については教員同士で、1学期の実践の共有や振り返りをする。
- II 学年で国語科の重点単元を決め、研修内容①の単元のめあて（ゴール像）を明確にした単元計画（単元計画の例②）を作成する。

#### 【2学期】

- ・個人や学年でそれぞれが引き続き学びの土台づくりの手立ての取り組みを進める。2学期には「対話的な学び」に向けた手立ても選択肢に入れていく。
- ・授業公開による全体研修会を行う。（1・4年生）
- ・授業公開のための、事前説明会、事後検討会を行う。
- ・国語科以外の教科で、2回以上のミニ研修を行う。
- ・2学期の実践の振り返り、3学期に向けためあてを立てる。

#### 【3学期】

- ・個人や学年でそれぞれが引き続き学びの土台づくりの手立ての取り組みを進める。
- ・国語科以外の教科で、2回以上のミニ研修を行う。学びの土台づくりの手立ての共有をする。
- ・「1年間の研修の振り返り」を行う。

## (2) 習熟度別少人数指導

- ・ 5、6年生の算数科で、習熟度少人数指導を行う。
- ・ 各単元のテストの結果及び児童のアンケート結果からコースを選択する。
- ・ それぞれのコースの児童の実態に合わせて授業づくりを行っていく。
- ・ 単元によっては、習熟度別ではない少人数指導も行う。

## (3) 授業力向上に向けた取り組み

- ・ 自主授業公開を行い、授業を見合う。
- ・ 参観同日に、ミニ事後検討を行う。
- ・ 授業公開週間を設けて、授業公開や動画を撮影した授業公開をする。

## (4) 基礎・基本の定着に向けて

- ・ 家庭学習の定着と充実
- ・ 学習規律やノート指導の統一
- ・ ミライシードなどの ICT を活用した、既習事項の復習

## 7 研究計画

月 日	内容
4月13日(水)	全体研 授業者決定〆切
4月22日(水)まで	学調・みえスタに向けた類似問題への取り組み
4月23日(木)	全国学力調査テスト 国語・算数(6年) みえスタ 国語・算数・理科(※理科は5年生のみ)
4月24日(金)	児童質問紙調査(6年)
4月27日(月)	校内研修① 学長・みえスタの採点
5月1日(火)	校内研修② 今年度の研修の方向性を共有する。
5月19日(火)	ミニ研修 国語科
6月16日(水)	ミニ研修 国語科
6月下旬	校内研修③ 5年生 全体公開授業①
7月23日(木)	校内研修④ 全体研修会と各自取り組みの振り返り
7月28日(火)	研修講座 深い学びをつくる子どもの「問い」
9月	ミニ研修 ICT
11月	校内研修⑥ 全体公開授業②
12月	ミニ研修
1月	校内研修⑦ 全体公開授業② ミニ研修
2月下旬	ミニ研修 校内研修⑧ 研修の反省等